

2016 年度第 2 四半期決算

プレスリリース
2016 年 7 月 28 日、パリ発



好業績および 事業成長による着実な自己資本の積上げ

連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと事業部門は成長維持
当四半期は為替相場の変動がマイナス影響
ビザ・ヨーロッパ株の売却益がプラス影響

営業収益：前年同期比 **+2.2%**

営業費用は安定推移

前年同期比 **+0.1%**

リスク費用は減少

前年同期比 **-12.4%** (45 BP*)

純利益は高水準で安定推移

株主帰属純利益：**25 億 6000 万ユーロ**
(前年同期比 **+0.2%**)

自己資本利益率は上昇**

ROE：**9.7%** (2015 年度通期比 **+50 BP**)
ROTE：**11.6%** (2015 年度通期比 **+50 BP**)

バーゼル 3 エクイティ TIER 1 比率はさらに上昇***

11.1% (2016 年 3 月末比 **+10 BP**)

* リスク費用 ÷ 期首融資残高； ** ROE：自己資本利益率、および ROTE：有形自己資本利益率。いずれも特別項目を除き、上半期数値を年率換算後；
*** 2016 年 6 月末現在。資本要求指令 4 (CRD4) を全面適用した比率



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

2016年7月27日にBNPパリバ取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2016年度第2四半期の業績が検討され、当上半期に関わる中間決算報告書が承認されました。

好業績および事業成長による着実な自己資本の積上げ

顧客ニーズへの対応に照準を合わせた事業の地理的分散化と業態多様化の恩恵を受け、BNPパリバ・グループは、依然として厳しい環境にも関わらず、当四半期も全体的に良好な業績を収めました。グループは当四半期においても、統合され多様化したビジネスモデルの強みを証明しました。かかるビジネスモデルは、変化し続ける環境にあって強靱な粘り強さを発揮します。

営業収益は当四半期に113億2200万ユーロに上り、前年同期と比べて2.2%の増収となりました。当四半期の営業収益には、ビザ・ヨーロッパ株の売却による一過性の譲渡益+5億9700万ユーロが含まれていました。また、自己負債の再評価に関わる修正額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関わる債務価値調整額（Debt Value Adjustment: DVA）による影響として、合計で-2億400万ユーロが計上されました（前年同期は+8000万ユーロ）。

事業部門全体では、為替効果がマイナスに働き、営業収益は前年同期比-0.5%と僅かに減少しましたが、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、前年同期比+0.7%の増収でした。事業部門別では、国内市場部門¹の営業収益は、低金利環境にも関わらず粘り強く持ちこたえ、前年同期比-1.4%²の減収に留まりました。国際金融サービス部門の営業収益は、前年同期比+1.3%²の増収となりました。ホールセールバンキング事業（CIB）の営業収益は、前年同期の高い水準と比べても+3.6%²の増収を果たしました。CIBの事業において第2四半期は通常、季節要因が作用するにも関わらず、当四半期は業務活動と営業収益のいずれも、第1四半期のそれを上回っていました。

営業費用は当四半期に70億9000万ユーロとなり、前年同期比+0.1%と安定推移しました。当四半期の営業費用には、買収に関わる一時的な事業再編費用³に加えCIBの事業改編計画に要する費用が、合計で1億800万ユーロ含まれています（前年同期は6200万ユーロ）。なお、当四半期の営業費用には、Simple & Efficient計画に関わる改編費用は含まれません（前年同期は1億5500万ユーロ）：従来の目標どおり、同計画に関わる最終的な費用は2015年度第4四半期に計上されました。

営業費用を部門別にみると、国内市場部門¹で前年同期比1.1%²増加し、また国際金融サービス部門で2.6%²増加し、さらにCIBでは当四半期の業務活動の増加を反映して、営業費用は前年同期比5.5%²増加しました。事業部門の営業費用は、Simple & Efficient計画の成果を受けて経費の自然増が打ち消された一方で、新規の実施やコンプライアンス体制の強化による影響を反映しています。

これらを受けて、グループの営業総利益は当四半期に前年同期比5.9%増加し、42億3200万ユーロに上りました。

リスク費用は当四半期に-12.4%と大幅に減少しました。これにはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、およびイタリアで引き続き状況改善が認識されたことが貢献しました。当四半期のリスク費用は7億9100万ユーロとなり（前年同期は9億300万ユーロ）、融資残高の45bp相当でした。

営業外損益は当四半期に+8400万ユーロの利益となりました。（前年同期は+5億9200万ユーロの利益でしたが、これにはとりわけ、クレピエール＝コリオに対する7%持分の売却益に加え、クレピエールとコリオの合併により生じた希薄化を引き起こすキャピタルゲインが、一時的要因として影響していました。）

これらを受けて、当四半期の税引前利益は35億2500万ユーロとなり、前年同期の36億8500万ユーロと比べて-4.3%減少しました。

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ LaSer、BGZ銀行、DABバンク、およびGeneral Electric LLD

以上から、当四半期の株主帰属純利益は 25 億 6000 万ユーロに上り、前年同期と比べて+0.2%の増益を果たしました。なお一時項目¹を除くと、当四半期の株主帰属純利益は 21 億 9000 万ユーロとなり、前年同期比-4.8%の減益になります。

2016 年 6 月末現在、バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率²は 11.1%となり、2016 年 3 月末の水準から 10bp の上昇を果たすことにより、グループが事業成長を通して着実に自己資本を積上げていることを証明しました。バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率³は 2016 年 6 月末現在で 4.0%となり、2016 年 3 月末の水準から安定推移しました。

流動性カバレッジ比率 (LCR) は、2016 年 6 月末現在で 112%となりました。また、グループの即時利用可能な余剰資金は 2016 年 6 月末に 2910 億ユーロに上っており (対して、2016 年 3 月末現在は 2980 億ユーロ)、これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

1 株当たり純資産額は 2016 年 6 月末現在で 71.8 ユーロに上り、2008 年 12 月末からの年平均成長率 (CAGR) は 6.2%に相当します。これは、グループが景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明するものです。

さらに、グループは、米司法当局との包括的和解の一環として合意された是正計画を積極的に実施するとともに、コンプライアンスおよび内部統制手続きの強化を継続しています。

*
* *

2016 年度上半期において、第 1 四半期の市場環境が特に厳しかったにも関わらず、営業収益は粘り強さを発揮して 221 億 6600 万ユーロに上り、2015 年度上半期と比べて 0.1%の増収を果たしました。当上半期の営業収益には、ビザ・ヨーロッパ株の売却による一過性の譲渡益+5 億 9700 万ユーロが含まれていました。また、自己負債の再評価に関わる修正額 (Own Credit Adjustment: OCA) およびデリバティブに関わる債務価値調整額 (Debt Value Adjustment: DVA) による影響として、+1 億 6100 万ユーロが計上されました (前年同期は+1 億 1700 万ユーロ)。

事業部門の営業収益は、前年同期と比べて底堅さをみせました。国内市場部門⁴の営業収益は前年同期比-1.4%⁵の減収に留まり、国際金融サービス部門では前年同期比+1.5%⁵の増収を果たした一方、CIB では第 1 四半期の市場環境が特に厳しかったことから、前年同期比-7.7%⁵の減収となりました。

営業費用は当上半期において 147 億 1700 万ユーロとなり、前年同期比 1.2%減少したことが示すように、十分抑制が効いていました。当上半期の営業費用には、買収に関わる一時的な事業再編費用⁶に加え CIB の事業改編計画に要する費用が、合計で 1 億 5400 万ユーロ含まれています (前年同期は 8200 万ユーロ)。なお、当上半期からは、Simple & Efficient 計画に関わる改編費用は含まれません (前年同期は 2 億 6500 万ユーロ)。

営業費用を部門別にみると、国内市場部門⁴では前年同期比 1.3%⁵増加し、国際金融サービス部門では前年同期比 3.4%⁵増加しましたが、CIB では第 1 四半期に相場混乱のあおりを受けて業務活動が低下したことから、前年同期比 2.3%⁵減少しました。なお、IFRIC 第 21 号「賦課金」の解釈⁷に基づき、当上半期の営業費用には、2016 年度の銀行業務に関わる税金および拠出金の増加分の全額が含まれています (事業部門の営業費用に対する影響は+1.2%の嵩上げ)。事業部門の営業費用は、Simple & Efficient 計画の成果を受けて経費の自然増が打ち消された一方で、新規制の実施やコンプライアンス体制の強化による影響を反映しています。

グループの営業総利益は、当上半期に前年同期比 2.7%増加して 74 億 4900 万ユーロに上りました。

¹ 一時項目による影響は税引後ベースで：2016 年度第 2 四半期は +3 億 7000 万ユーロ、2015 年度第 2 四半期は +2 億 5500 万ユーロ

² 経過措置なしで全ての資本要求指令 4 (CRD4) 規則を考慮した比率

³ 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会 (EC) 委任法令に基づき算定された比率

⁴ 国内市場部門のプライベート・バンキングの 100%を含む (PEL/CEL の影響を除く)

⁵ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

⁶ LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD

⁷ 2016 年度に必要とされる銀行業務に関わる税金および拠出金の全額を第 1 四半期に計上

当上半期のリスク費用は、前年同期と比べて **-20.5%**と大幅に減少しました。これにはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、およびイタリアで引き続き状況改善が認識されたことが貢献しました。当上半期のリスク費用は **15 億 4800 万ユーロ**となりました（前年同期は **19 億 4700 万ユーロ**）。

営業外損益は当上半期に**+2 億 6200 万ユーロ**の利益となりました。（前年同期は**+9 億 3100 万ユーロ**の利益でしたが、これにはクレピエール=コリオに対する **7%**持分の売却益**+3 億 6400 万ユーロ**と、クレピエールとコリオの合併により生じた希薄化を引き起こすキャピタルゲイン**+1 億 2300 万ユーロ**に加え、さらに非戦略的な投資先に対する持分の売却益 **+9400 万ユーロ**が、一時項目として影響していました。）

これらを受けて当上半期の税引前利益は **61 億 6300 万ユーロ**となり、前年同期の **62 億 3700 万ユーロ**と比べて**-1.2%**減少しました。

以上から、当上半期の株主帰属純利益は **43 億 7400 万ユーロ**に上り、前年同期比 **4.1%**の増益を果たしました。なお一時項目¹を除くと、当上半期の株主帰属純利益は **37 億 9600 万ユーロ**となり、前年同期比 **-1.3%**の減益となります。

当上半期の自己資本利益率は、一時項目²を除いた年率換算後で **9.7%**となりました（2015 年度通期との比較で**+50bp**の上昇）。有形自己資本利益率は、一時項目²を除いた年率換算後で **11.6%**に上りました（2015 年度通期との比較で**+50bp**の上昇）。なお、エクイティ Tier 1 比率 **10%**を前提に算定した自己資本利益率²は、一時項目を除いた年率換算後で **10.5%**となりますが、これは **2014-2016 年度事業計画**の目標に沿う水準です。

¹一時項目による影響は税引後ベースで：2016 年度上半期は **+5 億 7800 万ユーロ**、2015 年度上半期は **+3 億 5800 万ユーロ**

²一時項目による影響は税引後ベースで：2016 年度上半期は **+5 億 7800 万ユーロ**、2015 年度通期は **-6 億 4400 万ユーロ**

リテールバンキングおよびサービス事業

国内市場部門

借入需要が緩やかに回復するなかにあつて、国内市場部門の融資残高は当四半期に前年同期と比べて **1.9%** 増加しました。預金残高は、国内ネットワークの全体にわたり着実に伸びたことから、前年同期比 **5.5%** 増加しました。活発な営業活動の成果はとりわけ **Hello bank!** の事業の高い伸びに反映され、**2016** 年の年初から累計で **210,000** 口座に上る新規顧客を獲得しました。国内市場部門は引き続きデジタルバンキングの商品群を拡充し、スマートフォンを利用したインテリジェント・ポートフォリオである **Wa!** の使用テストを開始しました。同商品は、決済機能、ポイントサービス、割引クーポンなどをセットにしたもので、**2017** 年に導入が予定されています。またアルバルは、**2015** 年 **11** 月に買収した **GE Fleet Services** の統合をすみやかに実施しています。

営業収益¹ は当四半期に **39** 億 **6200** 万ユーロとなり、前年同期と比べて **0.5%** の減収でした。これには長引く低金利環境に加え、当四半期も厳しい市場環境が続いたことから金融手数料が減少したことが響きました。それでも、ベルギー国内リテールバンキング (**BRB**) および専門的金融業務の事業は好調に推移し、これらの部門の営業収益は増収を果たしました。

営業費用¹ は当四半期に **24** 億 **4900** 万ユーロとなり、前年同期と比べて **2.1%** 増加しました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除き、かつ **BRB** で計上された非経常的損益項目を除くと、当四半期の営業費用は前年同期から安定推移しました。

これらを受けて、営業総利益¹ は前年同期から **4.5%** 減少して **15** 億 **1300** 万ユーロとなりました。

リスク費用は、低金利環境の恩恵を受けて大幅に減少しましたが、とりわけ **BNL** バンカ・コメルシアレでの継続的な減少が顕著でした。

以上から、プライベート・バンキング業務の純利益の **3** 分の **1** を、国内市場部門からウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、当四半期の税引前利益² は前年同期比 **-0.7%** と僅かに減少して **10** 億 **7600** 万ユーロとなりました。

2016 年度上半期において、営業収益¹ は **79** 億 **2500** 万ユーロとなり、**2015** 年度上半期と比べて **0.6%** の減収でした。これには長引く低金利環境に加え、厳しい市場環境を受けて金融手数料が減少したことが響きました。それでも、ベルギー国内リテールバンキング (**BRB**) および専門的金融業務が好業績を収めました。営業費用¹ は当上半期に **52** 億 **6800** 万ユーロに上り、前年同期から **2.2%** 増加しました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除き、かつ **BRB** で **2015** 年度第 **2** 四半期に計上された非経常的損益項目を除くと、当上半期の営業費用の増加幅は **0.8%** に留まります。なお、かかる増加は、アルバルおよびリーシング・ソリューションズの内部的な成長によるものです。営業総利益¹ は当上半期に **26** 億 **5700** 万ユーロとなり、前年同期と比べて **5.7%** 減少しました。ただし、リスク費用は大幅に低下し、とりわけ **BNL** バンカ・コメルシアレでの減少が顕著でした。以上から、プライベート・バンキング業務の純利益の **3** 分の **1** を、国内市場部門からウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、当上半期の税引前利益³ は前年同期比 **1.0%** 増加して **17** 億 **6700** 万ユーロに上りました。

フランス国内リテールバンキング (FRB)

フランス国内リテールバンキング (**FRB**) の融資残高は、繰上げ返済の影響を受けて、当四半期に前年同期比 **1.4%** 減少しました。ただし、当四半期にローンの設定が増加傾向となったことから、融資残高は **2016** 年度第 **1** 四半期との比較で **1.1%** 増加しました。預金残高は、当座預金の高い伸びが牽引し、当四半期に前年同期比 **5.1%** 増加しました。営業活動の回復基調は、起業家を支援するプログラムである **BNP Paribas Entrepreneurs** の成功に現れています。同プログラムは **100** 億ユーロの資金提供を目標としていますが、既に **60** 億ユーロの融資が設定されています。

¹ フランス (PEL/CEL の影響を除く)、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの **100%** を含む

² PEL/CEL の影響を除く (2016 年度第 **2** 四半期は **-2100** 万ユーロ、2015 年度第 **2** 四半期は **-600** 万ユーロ)

³ PEL/CEL の影響を除く (2016 年度上半期は **-300** 万ユーロ、2015 年度上半期は **-3300** 万ユーロ)

営業収益¹は当四半期に 16 億 800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.6%の減収でした。純利息収入¹は、長引く低金利の影響で当四半期に 3.7%減少しました。手数料収入¹に関しては、当四半期も不利な市場環境が続いたため、金融手数料の減少が響いて前年同期比 3.4%減少しました。

営業費用¹は、コスト抑制策が奏功して前年同期から 0.8%の微増に留まりました。

営業総利益¹は当四半期に 5 億 200 万ユーロとなり、前年同期比 12.1%減少しました。

当四半期のリスク費用¹は、前年同期から 1500 万ユーロ減少して 7200 万ユーロとなったことが示すように、依然として低い水準にあり、融資残高の 20bp 相当でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRB の税引前利益²は当四半期に 3 億 9800 万ユーロとなり前年同期比 10.0%の減益でした。

2016 年度上半期において、営業収益¹は 32 億 5200 万ユーロとなり、2015 年度上半期と比べて 2.7%の減収でした。純利息収入¹は、長引く低金利の影響を受けて 2.2%減少しました。手数料収入¹に関しては、不利な市場環境の影響で金融手数料の減少が響き、前年同期比 3.3%減少しました。営業費用¹は、増税および規制コストの上昇にも関わらず、費用抑制策が奏功して前年同期比 0.8%の微増に留まりました。これらを受けて、営業総利益¹は当上半期に 9 億 7200 万ユーロとなり、前年同期比 10.1%減少しました。リスク費用¹は当上半期に 1 億 4600 万ユーロで、前年同期から 3000 万ユーロ減少しました。以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、FRB の税引前利益³は当上半期に 7 億 5700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 7.9%の減益でした。

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

経済環境が穏やかに改善するなか、BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc) の融資残高は、個人顧客をはじめとして顧客からの借入需要が徐々に回復したため、前年同期と比べて 0.4%の微増を果たしました。預金残高は、個人顧客の当座預金の急増を受けて、当四半期に 10.0%増加しました。BNL bc はオフバランス貯蓄商品で好業績を収め、2015 年 6 月末と比べて、生命保険残高は 10.3%増加し、またミューチュアルファンドの残高は 6.1%増加しました。

営業収益⁴は前年同期から 6.0%減少し、当四半期に 7 億 4900 万ユーロとなりました。純利息収入⁴は前年同期比 8.4%減少しましたが、これには長引く低金利環境や上位法人顧客向け融資の見直しをしたことが影響しました。手数料収入⁴は、銀行業務の手数料が増加したものの、当四半期の市場環境が引き続き不利に働いたことから金融手数料が減少し、当四半期に前年同期比 1.3%の減少となりました。

営業費用⁴は、コスト削減策が奏功したおかげで前年同期比 2.3%減少し、当四半期に 4 億 3300 万ユーロとなりました。

これらを受けて、営業総利益⁴は当四半期に 3 億 1700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 10.5%減少しました。

¹ フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む (PEL/CEL の影響を除く)

² PEL/CEL の影響を除く (2016 年度第 2 四半期は-2100 万ユーロ、2015 年度第 2 四半期は -600 万ユーロ)

³ PEL/CEL の影響を除く (2016 年度上半期は-300 万ユーロ、2015 年度上半期は-3300 万ユーロ)

⁴ イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む

リスク費用¹は当四半期に融資残高の 126bp 相当となり、減少傾向をたどりました（前年同期と比べて 7600 万ユーロの減少）。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当四半期に 6500 万ユーロに上り、前年同期から大幅に改善しました（4100 万ユーロの増加）。

2016 年度上半期において、営業収益¹は 2015 年度上半期から 7.5%減少して 14 億 8600 万ユーロとなりました。純利息収入¹は、長引く低金利環境や上位法人顧客向け融資の見直しをしたことが影響し、当上半期に 9.6%減少しました。手数料収入¹は、不利な市場環境を受けて金融手数料が減少したことから、当上半期に 3.2%減少しました。営業費用¹は、コスト削減策が奏功し、当上半期に 8 億 9400 万ユーロで前年同期と比べて 1.4%減少しました。これらを受けて、営業総利益¹は 5 億 9200 万ユーロとなり、前年同期から 15.3%減少しました。リスク費用¹は、貸出ポートフォリオの質が徐々に改善するとともに不良債権残高が縮小したことから、当上半期も減少傾向をたどりました（前年同期から 1 億 2300 万ユーロの減少）。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当上半期に 5700 万ユーロに上りました（対して、前年同期の税引前利益は 3800 万ユーロ）。

ベルギー国内リテールバンキング

ベルギー国内リテールバンキング（BRB）は、当四半期も積極的な営業活動を展開しました。融資残高は、住宅ローンの需要が特に旺盛で個人顧客向け融資が伸びたことに加え、中小企業（SME）向け融資も伸びたため、当四半期に前年同期比 5.2%増加しました。一方、預金残高は、とりわけ当座預金が高い伸びを示し、前年同期から 5.1%増加しました。BRB はデジタルバンキング・サービスの拡充を継続し、その一環として Easy Banking アプリの更新版をリリースしました。更新版では特に指紋認証に加え、新たな機能が組み込まれています。

営業収益²は当四半期に前年同期比 3.3%の増収となり、9 億 2300 万ユーロに上りました。純利息収入²は、融資残高の増加に伴い前年同期比 8.7%増加しました。一方、手数料収入²は、当四半期も市場環境が不利に働いたことから金融手数料が減少したため、前年同期比 10.3%減少しました。

営業費用²は、前年同期と比べて 5.7%増加して 5 億 5500 万ユーロに上りました。なお、前年同期に発生した非経常的項目³の影響を除くと、当四半期の営業費用の増加幅は 0.6%の微増に留まり、継続的な費用抑制効果を反映しています。

これらを受けて、営業総利益²は当四半期に 3 億 6700 万ユーロとなり、前年同期から安定推移しました。

リスク費用²は、当四半期に 4900 万ユーロで融資残高の 20bp 相当となり、依然として低い水準でした。なお、当四半期のリスク費用には特定の融資に関わる引当金が大きく影響しており、その結果、前年同期のとりわけ低い水準と比べて 4700 万ユーロ増加しました。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRB の税引前利益は当四半期に 3 億 200 万ユーロとなり、前年同期と比べて 13.7%の減益でした。

2016 年度上半期において、営業収益²は 2015 年度上半期と比べて 2.8%の増収となり、18 億 4000 万ユーロに上りました。純利息収入²は、融資残高の増加に加えてマージンが底堅く推移したことから、前年同期比 7.1%増加しました。一方、手数料収入²は、当上半期の不利な市場環境を受けて金融手数料が減少したため、当上半期に 8.5%減少しました。

¹ イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む

² ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む

³ 特に Subscription Tax（ファンドの純資産に課される年次税）の特別還付金が影響

営業費用¹は前年同期から 3.7%増加して 13 億 4600 万ユーロに上りました。なお、非経常的項目²の影響を除くと、当上半期の営業費用の増加幅は 1.6%に留まります。これらを受けて、営業総利益¹は当上半期に 4 億 9400 万ユーロに上り、前年同期比 0.5%の微増を果たしました。リスク費用¹は当上半期に 7000 万ユーロとなり、前年同期の低水準と比べて 3500 万ユーロ増加しました。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、BRB の税引前利益は当上半期に 3 億 9000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 4.8%の減益でした。

その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、ルクセンブルク国内リテールバンキング）

国内市場部門の専門的金融業務は、当四半期も力強い事業展開を押し進めました。

アルバルは、買収した欧州の GE Fleet Services³の統合を積極的に進めました。新たな事業体は、2015 年現在で車両数 893,000 台のファイナンス・リース契約を保有し、欧州随一の規模を誇っています。また、事業統合により 2019 年までに約 4500 万ユーロのシナジー効果が期待されていますが、その主な要因として、IT システムの廃止に加え、機能の共有化や高いスケールメリットによる経費節減が挙げられます。アルバルは当四半期も意欲的な活動を展開し、ファイナンス・フリートの保有台数は連結範囲の変更による影響を除いても、前年同期と比べて 10.8%の高い伸びを達成しました。

リーシング・ソリューションズでは、ノンコア資産の継続的な圧縮にも関わらず、コア事業の伸びが好調で、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除いても、前年同期比 3.9%の増加を果たしました。個人投資家部門では、新規顧客の獲得が順調に進みました。

ルクセンブルク国内リテールバンキングでは、特に住宅ローンの伸びに支えられて、融資残高が前年同期比 0.4%増加しました。預金残高は、法人顧客セグメントで旺盛な資金流入があったことから、前年同期比 16.2%の増加を果たしました。

当四半期の営業収益⁴は、欧州の GE Fleet Services の買収効果を反映して、前年同期と比べて 9.2%の増収となり 6 億 8100 万ユーロに上りました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の営業収益は 3.3%の増収でしたが、これにはアルバル、リーシング・ソリューションズ、および個人投資家部門が貢献しました。

営業費用⁴は、当四半期に前年同期比 6.8%増加して 3 億 5500 万ユーロとなりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、費用節減策が奏功し、前年同期比 0.6%の減少を果たしました。

リスク費用⁴は、前年同期から 100 万ユーロ減少して 2500 万ユーロとなりました。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 4 つの業務部門による国内市場部門の税引前利益への貢献は、当四半期に 3 億 1100 万ユーロに上り、前年同期と比べて +16.5%の大幅増益を果たしました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 5.9%の増益）。

2016 年度上半期において、営業収益⁴は 2015 年度上半期と比べて 9.1%の増収となり、13 億 4700 万ユーロに上りました。これには欧州の GE Fleet Services 買収による効果が反映されています。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当上半期の営業収益は、アルバルおよびリーシング・ソリューションズが牽引して 3.6%の増収を果たしました。営業費用⁴は、前年同期比 8.8%増加して 7 億 4700 万ユーロとなりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は 2.0%増加しましたが、これには事業開発の負担が反映されています。リスク費用⁴は、前年同期から 1600 万ユーロ減少して 5600 万ユーロとなりました。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら 4 つの業

¹ ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む

² 特に Subscription Tax（ファンドの純資産に課される年次税）の特別還付金が影響

³ 買収手続きは 2015 年 11 月 2 日に完了

⁴ ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの 100%を含む

務部門の税引前利益は、当上半期に前年同期比 17.2%の増益を果たし、5 億 6300 万ユーロに上りました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 10.4%の増益）。

*
* *

国際金融サービス部門

国際金融サービス部門は全体的に好業績を収めました：パーソナル・ファイナンスは引き続き事業の成長を迫りました；欧州・地中海沿岸諸国部門およびバンクウェストでは、営業活動が高い伸びを示しました；保険およびウェルス&アセット・マネジメントでは、純資金流入が好調に推移しました。

営業収益はそれでも前年同期比 1.5%減少して 38 億 1300 万ユーロとなりましたが、これには為替相場が不利に動いたことが影響していました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当四半期の営業収益は前年同期比 1.3%の増収となりますが、これにはパーソナル・ファイナンスおよび保険部門が大きく貢献しました。

営業費用は当四半期に 23 億 300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.1%の微増に留まりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比 2.6%の増加になりますが、これは事業の成長を反映したものです。

これらを受けて営業総利益は当四半期に 15 億 1000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.9%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 0.8%の減少）。

当四半期のリスク費用は 3 億 5500 万ユーロとなり、前年同期から-17.9%と大幅に減少しました。

これにより営業利益は当四半期に 11 億 5500 万ユーロに上り、前年同期比 1.4%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 4.2%の増加）。

当四半期は関連会社からの利益貢献が減少したこともあり、国際金融サービス部門の税引前利益は 12 億 6200 万ユーロとなり、前年同期と比べて-0.7%と若干の減益でした（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+2.5%の増益）。

2016年度上半期において、営業収益は 75 億 800 万ユーロとなり、2015年度上半期と比べて 1.1%の減収でしたが、これには為替相場が不利に動いたことが影響していました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと前年同期比 1.5%の増収となりますが、これにはとりわけ欧州・地中海沿岸諸国部門、バンクウェストおよびパーソナル・ファイナンスが貢献していました。営業費用は当上半期に 47 億 4400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.2%増加しました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は前年同期比 3.4%の増加になりますが、これは事業の成長を反映したものです。これらを受けて営業総利益は当上半期に 27 億 6400 万ユーロとなり、前年同期比 4.8%減少しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 1.8%の減少）。リスク費用は当上半期に 6 億 9500 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2 億ユーロ減少しました。以上から、国際金融サービス部門の税引前利益は当上半期に 23 億 1400 万ユーロに上り、前年同期比 2.6%の増益となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 4.9%の増益）。

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンスは、当四半期も引き続き意欲的な販売およびマーケティング活動に取り組みました。融資残高は、ユーロ圏における借入需要の高まりから前年同期比 8.9%¹増加しました。当部門はファイルのデジタルプロセスの拡充を継続した結果、2015年の第2四半期時点と比べて電子署名が平均で 15%増加しました。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

営業収益は、為替相場が不利に動いたことから、当四半期に前年同期比 0.3%の増収に留まり 11 億 6800 万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業収益は 2.8%の増収となりました。その背景には、取引高が増加した一方で、より有利なリスクプロファイルをもつ商品へのシフト傾向がこれを一部打ち消したことがあります。

営業費用は当四半期に前年同期比 5.9%減少して 5 億 4700 万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は 3.4%減少しました。これはコスト抑制策が奏功した一方で、当四半期に発生した非経常的項目が影響したことを反映しています。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に 6 億 2100 万ユーロとなり、前年同期比 6.5%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 9.0%の増加）。

リスク費用は当四半期に 2 億 4800 万ユーロで融資残高の 164bp 相当となり、前年同期から大幅に減少しました（4000 万ユーロの減少）。これには、低金利環境やより有利なリスクプロファイル商品へのシフト傾向が寄与しましたが、とりわけ自動車ローンがこれに貢献しました。

以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は、子会社株式の評価切り下げがあったにも関わらず、当四半期は 3 億 6400 万ユーロとなり、前年同期から 16.7%の急増を果たしました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 19.7%の増益）。

2016 年度上半期において、営業収益は 2015 年度上半期から 0.4%減少して 23 億 1700 万ユーロとなりましたが、これには為替相場が不利に動いたことが反映されています。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業収益は 2.3%の増収となりました。その背景には、取引高が増加した一方で、より有利なリスクプロファイルをもつ商品へのシフト傾向がこれを一部打ち消したことがあります。営業費用は当上半期に前年同期比 2.9%減少して 11 億 5500 万ユーロとなりました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用はコスト抑制策の効果を反映して 0.1%の減少となりました。これらを受けて、営業総利益は 11 億 6100 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.3%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 4.9%の増加）。リスク費用は、前年同期と比べて 1 億 1000 万ユーロ減少し大幅に改善しました。これには、低金利環境やより有利なリスクプロファイル商品へのシフト傾向が寄与しましたが、さらに、保有する不良債権の売却を受けて第 1 四半期に多額の貸倒引当金戻入益が計上されたことも貢献しました。以上から、子会社株式の評価切り下げを反映させた後、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当上半期に 6 億 9700 万ユーロとなり、前年同期と比べて 18.7%の大幅増益となりました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと 20.9%の増益）。

欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国部門では、事業が順調な伸びを示しました。融資残高は、当四半期に全ての地域で増加したことから、前年同期と比べて 6.1%¹ 増加しました。預金残高は、全ての国で好調な伸びを示し、当四半期に前年同期比 9.5%¹ 増加しました。また、デジタルバンキングの開発でも成果を上げ、トルコでは CEPTETEB の顧客数が既に 290,000 口座に達し、またポーランドでは BGZ OPTIMA の顧客数が 179,000 口座に上っています。

営業収益² はそれでも当四半期に 6 億 1600 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.1%¹ の減収でした。なお、非経常的項目を除くと、当四半期の営業収益は 3.9%¹ の増収となりました。

営業費用² は当四半期に 4 億 2900 万ユーロとなり、前年同期と比べて 11.2%¹ 増加しました。ただし、ポーランドで導入された銀行業務に課される税金の影響を除くと、営業費用は事業の成長を反映して 8.4%¹ 増加しました。

リスク費用² は当四半期に 8700 万ユーロとなり、融資残高の 89bp 相当と穏やかな水準に留まりました。また、前年同期との比較では当四半期に 2200 万ユーロ減少しました。

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² トルコのプライベート・バンキングの 100%を含む

以上から、関連会社による利益貢献の増加を考慮し、またトルコのプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当四半期に1億4900万ユーロとなり、前年同期と比べて13.1%¹の減益でした。

2016年度上半期において、営業収益²は12億2500万ユーロに上り、2015年度上半期と比べて4.0%³の増収となりました。営業費用²は8億6100万ユーロで前年同期比6.3%³増加しました。なお、ポーランドで導入された銀行業務に課される税金の影響を除くと、当上半期の営業費用は前年同期比4.0%³の増加となります。リスク費用²は当上半期に1億8300万ユーロとなり、前年同期と比べて7600万ユーロ減少しました。以上から、関連会社による多額の利益貢献を考慮し、またトルコのプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国部門の税引前利益は当上半期に2億8000万ユーロに上り、前年同期と比べて29.1%⁴の大幅増益を果たしました。

バンクウエスト

バンクウエストは、米国の良好な経済環境を背景に、当四半期も力強い事業展開を押し進めました。

融資残高は、法人向け融資および消費者ローンが引き続き伸びたことから、前年同期比7.9%³増加しました。預金残高は、当座預金および普通預金の高い伸びが牽引し、前年同期比6.3%³増加しました。バンクウエストは引き続きプライベート・バンキング業務の拡充を押し進めた結果、2016年6月末の運用資産残高は総額109億米ドルに上り、2015年6月末比で14%増加しました。

当四半期はまた、バンクウエストにとって記念すべき節目となりました。なぜならバンクウエストは、米連邦準備理事会（FRB）による包括的資本分析およびレビュー（Comprehensive Capital Analysis and Review：CCAR）の審査を受けた初年度から合格したからです。

営業収益⁵は当四半期に6億8800万ユーロとなり、前年同期と比べて3.2%³の減収でした。なお、前年同期に計上された債権売却による譲渡益の影響を除くと、当四半期の営業収益は前年同期比1.2%³増加しました。これには、プラス要因として取扱高の増加がありましたが、マイナス要因として前年同期から当四半期にかけての金利の低下が影響していました。

営業費用⁵は当四半期に4億8200万ユーロに上り、前年同期から6.3%³増加しました。その主な要因として、プライベート・バンキング、法人業務および消費者金融業務における営業体制の強化が挙げられます。

当四半期のリスク費用⁵は、2300万ユーロで融資残高の16bp相当となり、依然として極めて低い水準でした。また、前年同期と比べると700万ユーロ増加しました。

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウエストの税引前利益は当四半期に1億8100万ユーロとなり、前年同期と比べて25.0%⁶の減益でした。

2016年度上半期において、営業収益⁵は14億6100万ユーロに上り、2015年度上半期と比べて5.5%³の増収となりました。これには、プラス要因として2016年度第1四半期に計上された有価証券売却益に加え、当四半期に取扱高が増加したことがありましたが、マイナス要因として米国の低金利環境が、プラス要因の効果を一部打ち消したことがありました。営業費用⁵は当上半期に10億1600万ユーロとなり、前年同期から9.4%³増加しました。規制コストの上昇（主にCCARおよび中間持ち株会社の設立）およびファースト・ハワイアン・バンクの新規株式公開（IPO）に関わる一過性の準備費用を除くと、営業費用は当上半期

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合 -19.6%）

² トルコのプライベート・バンキングの100%を含む

³ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

⁴ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合 +19.0%）

⁵ 米国プライベート・バンキングの100%を含む

⁶ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合 -27.1%）

に 8.0%増加しましたが、これには営業体制の強化が反映されています。リスク費用¹は当上半期に 4800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1300 万ユーロ増加しました。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウエストの税引前利益は当上半期に 4 億 200 万ユーロとなり、前年同期と比べて 4.6%²の減益でした。

保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメントの運用資産残高³は、2015 年 6 月末と比べて 1.9%増加し、2016 年 6 月末現在で 9670 億ユーロに上りました。また、2015 年 12 月末の水準からは 130 億ユーロ増加しましたが、これには主に以下の要因が作用していました。まずプラス要因として、合計で 156 億ユーロに上る旺盛な純資金流入がありました。（ウェルス・マネジメントではとりわけ国内市場およびアジアで高水準の資金流入がありました。アセット・マネジメントでは、特に分散型ファンドおよび債券ファンドへの資金流入が好調に推移しました。保険部門では国内市場で高い資金流入がありました。）一方、マイナス要因として、運用パフォーマンス効果が若干の影響（-24 億ユーロ）を及ぼしました。なお為替効果は軽微でした。

2016 年 6 月末現在、保険およびウェルス&アセット・マネジメントの運用資産残高³の部門別内訳は以下のとおりでした：アセット・マネジメントは 3930 億ユーロ；ウェルス・マネジメントは 3310 億ユーロ；保険部門は 2200 億ユーロ；不動産管理部門は 220 億ユーロ。

保険部門では、営業収益は当四半期に 6 億 1100 万ユーロとなり、前年同期と比べて 8.8%の増収でした。これにはとりわけ資産の売却により多額の実現益が計上されたことが貢献しました。営業費用は当四半期に 2 億 7800 万ユーロとなりましたが、確かなコスト抑制策が奏功し、増加幅は 0.8%に留まりました。税引前利益は当四半期に 3 億 8700 万ユーロに上り、前年同期と比べて 12.8%の増益を果たしました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門では、営業収益は厳しい市場環境にも関わらず底堅く推移した結果、当四半期に 7 億 4300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 2.7%の減収でした。営業費用はコスト抑制策が奏功し、当四半期は 5 億 7700 万ユーロで前年同期から-0.3%と若干の減少を果たしました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメントの税引前利益は当四半期に 1 億 8100 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.1%の減益でした。

2016 年度上半期において、保険部門の営業収益は 10 億 6700 万ユーロとなり、2015 年度上半期と比べて 6.2%の減収でした。保険部門の営業収益の一部は時価評価して計上されるため、当上半期の営業収益には金融市場の下落による影響が反映されていました。営業費用は、規制コストの上昇を受けて当上半期に前年同期比 1.8%増加し、5 億 8700 万ユーロとなりました。以上から、保険部門の税引前利益は当上半期に 5 億 8600 万ユーロとなり、前年同期と比べて 11.1%減少しました。ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、厳しい市場環境にも関わらず底堅く推移し、当上半期に 14 億 6500 万ユーロとなり、前年同期から 1.2%の減収でした。営業費用は、コスト抑制策が奏功し、当上半期に 11 億 4400 万ユーロとなり、前年同期から 0.1%減少しました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメントの税引前利益は当上半期に 3 億 4900 万ユーロとなり、前年同期と比べて+ 0.2%と若干の増益を果たしました。

*
* *

¹ 米国プライベート・バンキングの 100%を含む

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合 -5.6%）

³ 分配金を含む

ホールセールバンキング事業 (CIB)

ホールセールバンキング事業 (CIB) は、当四半期に全体として極めて良好な業績を収めました。

CIB の営業収益は当四半期に 30 億 5600 万ユーロに上り、市場環境に恵まれて高水準の営業収益を計上した前年同期と比べて 1.4% の増収となりました。

グローバルマーケット部門の営業収益は、当四半期に 15 億 5800 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.1% の増収となりました。当四半期は顧客の取引が著しく回復したおかげで、当四半期の営業収益は 2016 年度第 1 四半期から大幅に持ち直しました。FICC¹ (フィクストインカム・通貨・コモディティ) 業務の営業収益は 10 億 5000 万ユーロに上り、前年同期比 16.7% の増収となりました。その主な要因として、金利および為替業務が堅調に推移するとともに、クレジットおよび債券発行業務も好調であったことが挙げられます。当部門は新発債市場における地位を確認しました (ユーロ建て全債券で No. 1、また全国際債券で No. 8 にランクインしました)。株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当四半期に 5 億 900 万ユーロとなり、極めて高水準であった前年同期と比べて 18.7% 減少しました。市場リスクを測定するバリュー・アット・リスク (VaR) は、当四半期に 3400 万ユーロで極めて低い水準に留まりました。

証券管理部門の営業収益は、当四半期に 4 億 6100 万ユーロとなり前年同期比 2.6% 減少しました。その主な要因として、株式相場下落に加え、投資家が様子見姿勢を強めるなか、ファンドの買付が減少し解約が増えたことがありました。カスタディ業務の預かり資産残高は、受託資産が増える一方で下落相場が預り資産の目減りにつながり、全体としては安定推移し前年同期比 0.2% 増加しました。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期は事業の成長を受けて 10 億 3700 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.2% の増収となりました。営業収益は、欧州および南北アメリカ大陸で増加し、アジアパシフィックでは市場が活気を欠いたものの営業収益は底堅く推移しました。手数料収入は、クロスボーダー・ファイナンスおよびアドバイザー契約に加えトランザクション業務が順調に進んだことを受けて、当四半期に 8.0% 増加しました。融資残高は当四半期に 1280 億ユーロに上り、前年同期から 1.9% 増加しました。預金残高は、キャッシュマネジメント業務で市場シェアを拡大したことから、当四半期は 1130 億ユーロに上り、前年同期と比べて +21.6% の急増を果たしました。

CIB の営業費用は当四半期に 21 億 1500 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.1% 増加しました。その主な要因として事業の成長がありますが、また、規制コストが上昇した一方で (中間持ち株会社の設立、コンプライアンスなど)、これを上回って費用節減効果が発揮されました。

CIB のリスク費用は、前年同期から 3200 万ユーロ増加して当四半期に 4600 万ユーロとなりましたが、依然として低い水準でした。部門別では、コーポレートバンキング部門のリスク費用は 4200 万ユーロの低水準に留まり、融資残高の 14bp 相当でした (相殺後で貸倒引当金戻入益が計上された前年同期と比べて 9700 万ユーロの増加)。グローバルマーケット部門のリスク費用は当四半期に 400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 6800 万ユーロ減少しました。

当四半期の営業外損益は僅少でした (前年同期は 2000 万ユーロの利益)。

以上から、CIB の税引前利益は当四半期に 9 億 700 万ユーロと極めて良好な結果でしたが、高水準であった前年同期と比べると 7.6% の減益となりました。

さらに、CIB は意欲的に事業改編計画を実施しています。その一環として、2016 年 6 月末現在で 60 億ユーロ相当のリスク加重資産を既に売却あるいは証券化しており、これに対して最終的な目標は 2019 年までに 200 億ユーロ相当を削減することです。

2016 年度上半期において、CIB の営業収益は 2015 年度上半期から 9.2% 減少して 57 億 4300 万ユーロとなりました。部門別では、グローバルマーケット部門の営業収益は 28 億 7600 万ユーロとなり、前年同期比 15.7% 減少しました。その背景には、年初の市場環境は極めて厳しかったものの、第 2 四半期には取引が大幅に回復したことがありました。FICC 業務¹ の営業収益は 19 億 4000 万ユーロとなり、前年同期と比べた減収幅は 5.8% と底堅く推移しました。株式およびプライムサービス業務の営業収益は 9 億 3700 万ユーロ

¹ Fixed Income, Currencies, and Commodities

となり、極めて高水準であった前年同期と比べて 30.8%減少しました。証券管理部門の営業収益は 9 億 100 万ユーロで前年同期比-1.2%と若干の減少でしたが、その主な要因として、株式相場の下落に加え、投資家が様子見姿勢を強めるなか、ファンドの買付が減少し解約が増えたことがありました。コーポレートバンキング部門の営業収益は 19 億 6500 万ユーロとなり、前年同期比 1.9%減少しました。これには 2016 年の年初に市場が活気を欠いたことに加え、2013 年以来実施されてきたエネルギー&コモディティ業務の縮小による残余的な影響が第 1 四半期に作用していました。CIB の営業費用は、業務活動の低下を受けて、当上半期に 43 億 7300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.4%減少しました。CIB のリスク費用は、以下の要因から当上半期に 7400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3600 万ユーロ減少しました：コーポレートバンキング部門のリスク費用は 9800 万ユーロでした（極めて低水準であった 2015 年度上半期から 7900 万ユーロ増加）；グローバルマーケット部門では、当上半期に相殺後で 2300 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されましたが、これに対し前年同期は 9500 万ユーロの貸倒引当金繰入額が計上されました。当上半期のその他営業外項目は僅少でした。これに対し、2015 年度上半期のその他営業外項目は 1 億 5600 万ユーロに上る高水準でしたが、その主な要因として、非戦略的投資先に対する持分の売却により実現した一過性のキャピタルゲイン 7400 万ユーロに加え、日常業務から発生したキャピタルゲインが含まれていました。以上から、CIB の税引前利益は当上半期に 13 億 1000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 29.8%の減益でした。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は当四半期に 6 億 5000 万ユーロに上りましたが、これに対し前年同期は 3 億 5200 万ユーロでした。当四半期の営業収益には以下が含まれています。すなわち、ビザ・ヨーロッパ株の売却益+5 億 9700 万ユーロが一時要因として大きく影響しました。また、自己負債の再評価に関わる修正額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関わる債務価値調整額（Debt Value Adjustment: DVA）による影響として、合計で -2 億 400 万ユーロが含まれています（前年同期は合計で +8000 万ユーロ）。さらに、プリンシパル・インベストメンツから高い収益貢献がありました。

営業費用は当四半期に 2 億 9500 万ユーロとなりましたが、これに対し前年同期は 3 億 9500 万ユーロでした。当四半期の営業費用には、一連の買収¹に関わる事業再編費用として 5000 万ユーロ（前年同期は 6300 万ユーロ）に加え、CIB 部門の事業改編費用が 5800 万ユーロ（前年同期はゼロ）含まれていました。なお、Simple & Efficient 計画に関わる事業改編費用は、当四半期に発生していません（前年同期は 1 億 5400 万ユーロ）：従来の目標どおり、同計画に関わる最終的な費用が 2015 年度第 4 四半期に計上されました。

リスク費用は当四半期に 500 万ユーロとなりました（前年同期は 2400 万ユーロ）。

営業外損益は当四半期に -4900 万ユーロの損失となりましたが、これには -5400 万ユーロに上るのれんの減損損失が含まれていました。対して、2015 年度第 2 四半期の営業外損益は+4 億 2200 万ユーロの利益となりましたが、これには総額 +4 億 2000 万ユーロに上る特別項目が含まれていました（クレピエールとコリオの合併により生じた希薄化を引き起こすキャピタルゲインが+5600 万ユーロ、および、クレピエール=コリオに対する 7%持分を売却したことによるキャピタルゲインが +3 億 6400 万ユーロ）。

以上から、コーポレート・センターの税引前利益は当四半期に 3 億 100 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3 億 5400 万ユーロでした。

2016 年度上半期において、コーポレート・センターの営業収益は 12 億 6800 万ユーロに上りましたが、これに対し 2015 年度上半期は 5 億 6100 万ユーロでした。当上半期の営業収益には以下が含まれています。すなわち、ビザ・ヨーロッパ株の売却益+5 億 9700 万ユーロが一時要因として大きく影響しました。また、自己負債の再評価に関わる修正額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関わる債務価値調整額（Debt Value Adjustment: DVA）による影響として、合計で +1 億 6100 万ユーロが含まれています（前年同期は合計で +1 億 1700 万ユーロ）。さらに、プリンシパル・インベストメンツから高い収益貢献がありました。営業費用は当上半期に 4 億 7700 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 6 億 5300 万ユーロ

¹ LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD

ロでした。当上半期の営業費用には、一連の買収¹に関わる事業再編費用として 7300 万ユーロ（前年同期は 8300 万ユーロ）に加え、CIB 部門の事業改編費用が 8000 万ユーロ（前年同期はゼロ）含まれていました。なお、Simple & Efficient 計画に関わる事業改編費用は、当上半期に発生していません（前年同期は 2 億 6500 万ユーロ）。当上半期のリスク費用は、相殺後で+300 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました（前年同期は -2200 万ユーロの貸倒引当金繰入額）。営業外損益は当上半期に -1800 万ユーロの損失となりました。対して、前年同期は +5 億 1300 万ユーロの利益となりましたが、これには以下が含まれていました：クレピエール=コリオに対する 7%持分の売却益が+3 億 6400 万ユーロ；クレピエールとコリオの合併により生じた希薄化を引き起こすキャピタルゲインが+1 億 2300 万ユーロ；非戦略的な投資先の持分売却により生じたキャピタルゲインのうち、コーポレート・センターに配分された+2000 万ユーロ²。以上から、コーポレート・センターの税引前利益は当上半期に+7 億 7600 万ユーロとなり、これに対し前年同期は+3 億 9800 万ユーロでした。

*
* * *

財務構造

グループは盤石なバランスシートを有しています。

バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率³は 2016 年 3 月末の水準から 10bp 上昇し、2016 年 6 月末現在で 11.1%になりました。これには基本的に当四半期の業績が貢献しており、以下の要素を織り込んでいます：配当性向 45%を考慮後の内部留保（+20bp）、およびリスク加重資産の増加⁴（-10bp）。なお、為替の変動によるエクイティ Tier 1 比率への影響は、当四半期は全体として軽微でした⁵。

バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率⁶は Tier 1 資本全部に基づき算定されますが、同比率は 2016 年 6 月末現在で 4.0%となり、2016 年 3 月末の水準から安定推移しました。

流動性カバレッジ比率は、2016 年 6 月末現在で 112%となりました。

グループの即時利用可能な余剰資金は 2016 年 6 月末現在、2910 億ユーロに上りました（対して、2016 年 3 月末は 2980 億ユーロ）。これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

グループの自己資本規制に関わる比率の推移は、グループが事業成長を通して着実に自己資本を積上げていること、および、規制変更に対応して規律を持ってバランスシートを管理する能力があることを証明しています。

¹ LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD

² これに加え、CIB のコーポレートバンキング部門で別途+7400 万ユーロを計上

³ 経過措置なしで全ての資本要求指令（CRD4）規則を考慮した比率。また、欧州議会・理事会規則（EU）No 575/2013 第 26 条第 2 項に従う

⁴ 為替レート変動による影響を除く

⁵ この他、ビザ・ヨーロッパ株の売却によるエクイティ Tier 1 比率への影響も軽微。同株の評価差額は 2015 年 12 月末に直接、資本の部に計上

⁶ 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

*
* *

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は、次のように述べています。

「複雑かつ変化し続ける環境にあっても、顧客ニーズに対応するよう統合化され多様化されたビジネスモデルのおかげで、BNPパリバは当四半期も好業績を収めました。

事業部門の営業収益は、依然として厳しい環境にも関わらず、為替変動による影響を除くと、当四半期も成長を持続しました。営業費用は安定推移し、リスク費用は大幅に減少しました。

グループのバランスシートは盤石です。さらに、バーゼル3全面適用のエクイティ Tier 1 比率が 11.1%へと上昇したことは、グループが事業成長を通して着実に自己資本を積上げていることを証明しています。

2014-2016 年度事業計画が掲げる目標に沿う業績を、当四半期に収めることができました。ここに、BNPパリバの全従業員の貢献に感謝の意を表します。」

連結損益計算書

	2Q16	2Q15	2Q16 / 2Q15	1Q16	2Q16 / 1Q16	1H16	1H15	1H16 / 1H15
(単位：百万ユーロ)								
営業収益	11,322	11,079	+2.2%	10,844	+4.4%	22,166	22,144	+0.1%
営業費用および減価償却費	-7,090	-7,083	+0.1%	-7,627	-7.0%	-14,717	-14,891	-1.2%
営業総利益	4,232	3,996	+5.9%	3,217	+31.6%	7,449	7,253	+2.7%
リスク費用	-791	-903	-12.4%	-757	+4.5%	-1,548	-1,947	-20.5%
営業利益	3,441	3,093	+11.3%	2,460	+39.9%	5,901	5,306	+11.2%
持分法による投資損益	165	164	+0.6%	154	+7.1%	319	301	+6.0%
その他営業外項目	-81	428	n.s.	24	n.s.	-57	630	n.s.
営業外損益	84	592	-85.8%	178	-52.8%	262	931	-71.9%
税引前利益	3,525	3,685	-4.3%	2,638	+33.6%	6,163	6,237	-1.2%
法人税	-864	-1,035	-16.5%	-720	+20.0%	-1,584	-1,846	-14.2%
少数株主帰属純利益	-101	-95	+6.3%	-104	-2.9%	-205	-188	+9.0%
株主帰属純利益	2,560	2,555	+0.2%	1,814	+41.1%	4,374	4,203	+4.1%
営業収益対コスト比率	62.6%	63.9%	-1.3 pt	70.3%	-7.7 pt	66.4%	67.2%	-0.8 pt

BNP パリバの2016年度第2四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリース、およびこれに添付したプレゼンテーション資料に含まれています。

法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com> の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典 L.451-1-2 条およびフランス金融市場庁 (Autorité des Marchés Financiers) の一般規則第 222-1 条以降の規定に従い、BNP パリバが公表しています。

2016 年度第 2 四半期 - コア事業別業績

	リテールバンキング およびサービス事業						グループ 合計
	国内市場 部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング 事業	事業部門 合計	その他業務		
(単位：百万ユーロ)							
営業収益	3,803	3,813	3,056	10,672	650	11,322	
	対前年同期比	-1.0%	-1.5%	+1.4%	-0.5%	+84.7%	+2.2%
	対前四半期比	-1.1%	+3.2%	+13.8%	+4.4%	+5.3%	+4.4%
営業費用および減価償却費	-2,378	-2,303	-2,115	-6,795	-295	-7,090	
	対前年同期比	+1.8%	+0.1%	+3.1%	+1.6%	-25.4%	+0.1%
	対前四半期比	-13.4%	-5.7%	-6.4%	-8.7%	+61.7%	-7.0%
営業総利益	1,425	1,510	942	3,876	356	4,232	
	対前年同期比	-5.4%	-3.9%	-2.2%	-4.0%	n.s.	+5.9%
	対前四半期比	+29.6%	+20.4%	n.s.	+39.4%	-18.4%	+31.6%
リスク費用	-385	-355	-46	-786	-5	-791	
	対前年同期比	-10.9%	-17.9%	n.s.	-10.6%	-77.6%	-12.4%
	対前四半期比	-3.3%	+4.6%	+60.7%	+2.6%	n.s.	+4.5%
営業利益	1,040	1,155	896	3,091	350	3,441	
	対前年同期比	-3.1%	+1.4%	-5.5%	-2.2%	n.s.	+11.3%
	対前四半期比	+48.3%	+26.3%	n.s.	+53.3%	-21.2%	+39.9%
持分法による投資損益	13	111	13	137	28	165	
その他営業外項目	2	-4	-2	-4	-77	-81	
税引前利益	1,055	1,262	907	3,224	301	3,525	
	対前年同期比	-2.1%	-0.7%	-7.6%	-3.2%	-15.2%	-4.3%
	対前四半期比	+49.0%	+20.0%	n.s.	+49.1%	-36.7%	+33.6%

	リテールバンキング およびサービス事業						グループ 合計
	国内市場 部門	国際金融 サービス部門	ホールセール バンキング 事業	事業部門 合計	その他業務		
(単位：百万ユーロ)							
営業収益	3,803	3,813	3,056	10,672	650	11,322	
	前年同期	3,842	3,871	3,014	10,727	352	11,079
	前四半期	3,844	3,696	2,686	10,226	618	10,844
営業費用および減価償却費	-2,378	-2,303	-2,115	-6,795	-295	-7,090	
	前年同期	-2,336	-2,300	-2,051	-6,688	-395	-7,083
	前四半期	-2,745	-2,442	-2,258	-7,445	-182	-7,627
営業総利益	1,425	1,510	942	3,876	356	4,232	
	前年同期	1,506	1,571	963	4,039	-43	3,996
	前四半期	1,099	1,254	428	2,782	435	3,217
リスク費用	-385	-355	-46	-786	-5	-791	
	前年同期	-432	-432	-14	-879	-24	-903
	前四半期	-398	-339	-28	-766	9	-757
営業利益	1,040	1,155	896	3,091	350	3,441	
	前年同期	1,074	1,138	948	3,160	-67	3,093
	前四半期	701	915	400	2,016	444	2,460
持分法による投資損益	13	111	13	137	28	165	
	前年同期	9	131	13	152	12	164
	前四半期	9	127	-3	133	21	154
その他営業外項目	2	-4	-2	-4	-77	-81	
	前年同期	-4	2	20	18	410	428
	前四半期	-2	10	6	14	10	24
税引前利益	1,055	1,262	907	3,224	301	3,525	
	前年同期	1,078	1,271	981	3,331	354	3,685
	前四半期	708	1,052	403	2,163	475	2,638
法人税							-864
少数株主帰属純利益							-101
株主帰属純利益							2,560

2016 年度上半期 - コア事業別業績

		リテールバンキング およびサービス事業		ホールセール バンキング 事業	事業部門 合計	その他業務	グループ 合計
		国内市場 部門	国際金融 サービス部門				
<i>(単位：百万ユーロ)</i>							
営業収益		7,647	7,508	5,743	20,898	1,268	22,166
	対前年同期比	-0.2%	-1.1%	-9.2%	-3.2%	n.s.	+0.1%
営業費用および減価償却費		-5,123	-4,744	-4,373	-14,240	-477	-14,717
	対前年同期比	+2.0%	+1.2%	-3.4%	+0.0%	-27.0%	-1.2%
営業総利益		2,524	2,764	1,370	6,658	791	7,449
	対前年同期比	-4.5%	-4.8%	-23.9%	-9.4%	n.s.	+2.7%
リスク費用		-783	-695	-74	-1,551	3	-1,548
	対前年同期比	-14.9%	-22.4%	-33.0%	-19.4%	n.s.	-20.5%
営業利益		1,741	2,069	1,296	5,106	795	5,901
	対前年同期比	+1.1%	+3.0%	-23.3%	-5.8%	n.s.	+11.2%
持分法による投資損益		22	239	10	270	49	319
その他営業外項目		0	6	4	10	-67	-57
税引前利益		1,763	2,314	1,310	5,387	776	6,163
	対前年同期比	+2.7%	+2.6%	-29.8%	-7.7%	+95.0%	-1.2%
法人税							-1,584
少数株主帰属純利益							-205
株主帰属純利益							4,374

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
グループ						
営業収益	11,322	10,844	10,449	10,345	11,079	11,065
営業費用および減価償却費	-7,090	-7,627	-7,406	-6,957	-7,083	-7,808
営業総利益	4,232	3,217	3,043	3,388	3,996	3,257
リスク費用	-791	-757	-968	-882	-903	-1,044
米司法当局との包括的和解に関わる費用	0	0	-100	0	0	0
営業利益	3,441	2,460	1,975	2,506	3,093	2,213
持分法による投資損益	165	154	154	134	164	137
その他営業外項目	-81	24	-656	29	428	202
税引前利益	3,525	2,638	1,473	2,669	3,685	2,552
法人税	-864	-720	-719	-770	-1,035	-811
少数株主帰属純利益	-101	-104	-89	-73	-95	-93
株主帰属純利益	2,560	1,814	665	1,826	2,555	1,648
営業収益対コスト比率	62.6%	70.3%	70.9%	67.2%	63.9%	70.6%

(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
リテールバンキングおよびサービス事業 PEL/CEL の影響を除く						
営業収益	7,636	7,522	7,681	7,582	7,719	7,571
営業費用および減価償却費	-4,681	-5,187	-5,049	-4,701	-4,636	-5,074
営業総利益	2,956	2,335	2,632	2,881	3,082	2,496
リスク費用	-740	-738	-882	-837	-865	-950
営業利益	2,216	1,598	1,750	2,045	2,218	1,546
持分法による投資損益	124	136	138	117	139	115
その他営業外項目	-2	8	-8	20	-2	-10
税引前利益	2,339	1,742	1,881	2,182	2,355	1,651
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	48.6	48.7	48.4	48.4	48.3	47.7
(単位: 百万ユーロ)						
リテールバンキングおよびサービス事業						
営業収益	7,615	7,540	7,685	7,580	7,713	7,543
営業費用および減価償却費	-4,681	-5,187	-5,049	-4,701	-4,636	-5,074
営業総利益	2,935	2,353	2,637	2,879	3,077	2,469
リスク費用	-740	-738	-882	-837	-865	-950
営業利益	2,195	1,616	1,755	2,042	2,212	1,519
持分法による投資損益	124	136	138	117	139	115
その他営業外項目	-2	8	-8	20	-2	-10
税引前利益	2,318	1,760	1,885	2,180	2,349	1,623
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	48.6	48.7	48.4	48.4	48.3	47.7
(単位: 百万ユーロ)						
国内市場部門(フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む)* PEL/CEL の影響を除く						
営業収益	3,962	3,963	3,905	3,920	3,982	3,991
営業費用および減価償却費	-2,449	-2,818	-2,713	-2,526	-2,398	-2,755
営業総利益	1,513	1,145	1,191	1,394	1,584	1,235
リスク費用	-388	-399	-471	-419	-433	-490
営業利益	1,124	746	721	975	1,152	745
持分法による投資損益	13	9	22	14	9	5
その他営業外項目	2	-2	-7	-7	-4	-15
税引前利益	1,140	753	735	981	1,156	736
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-63	-63	-60	-71	-72	-70
国内市場部門税引前利益	1,076	690	675	911	1,084	666
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	22.9	22.9	22.7	22.6	22.6	22.6
(単位: 百万ユーロ)						
国内市場部門(フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	3,803	3,844	3,782	3,781	3,842	3,821
営業費用および減価償却費	-2,378	-2,745	-2,646	-2,459	-2,336	-2,685
営業総利益	1,425	1,099	1,137	1,322	1,506	1,136
リスク費用	-385	-398	-471	-420	-432	-488
営業利益	1,040	701	666	902	1,074	648
持分法による投資損益	13	9	21	14	9	5
その他営業外項目	2	-2	-7	-7	-4	-15
税引前利益	1,055	708	680	908	1,078	638
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	22.9	22.9	22.7	22.6	22.6	22.6

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
フランス国内リテールバンキング(フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む)*						
営業収益	1,587	1,661	1,608	1,649	1,663	1,646
うち受取利息純額	879	972	951	959	929	934
うち手数料	709	689	657	690	734	713
営業費用および減価償却費	-1,106	-1,173	-1,207	-1,172	-1,097	-1,164
営業総利益	481	488	401	477	565	483
リスク費用	-72	-73	-88	-79	-87	-89
営業利益	408	415	313	398	478	394
営業外損益	1	1	1	1	1	1
税引前利益	409	416	314	398	479	395
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-32	-39	-34	-41	-43	-42
フランス国内リテールバンキング税引前利益	377	377	281	358	436	353
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	8.5	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3
(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
フランス国内リテールバンキング(フランス国内プライベート・バンキングの100%を含む)* PEL/CELの影響を除く**						
営業収益	1,608	1,643	1,603	1,651	1,668	1,674
うち受取利息純額	900	954	946	961	935	961
うち手数料	709	689	657	690	734	713
営業費用および減価償却費	-1,106	-1,173	-1,207	-1,172	-1,097	-1,164
営業総利益	502	470	396	479	571	510
リスク費用	-72	-73	-88	-79	-87	-89
営業利益	430	397	308	400	484	422
営業外損益	1	1	1	1	1	1
税引前利益	430	398	309	401	485	422
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-32	-39	-34	-41	-43	-42
フランス国内リテールバンキング税引前利益	398	359	276	360	442	380
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	8.5	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3
(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
フランス国内リテールバンキング(フランス国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	1,516	1,588	1,539	1,576	1,588	1,570
営業費用および減価償却費	-1,068	-1,139	-1,173	-1,141	-1,065	-1,130
営業総利益	448	450	367	436	523	440
リスク費用	-72	-73	-87	-79	-87	-88
営業利益	376	377	280	357	436	352
営業外損益	1	1	1	1	1	1
税引前利益	377	377	281	358	436	353
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	8.5	8.6	8.3	8.3	8.3	8.3

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

** PEL/CEL に関する引当金：当該引当金は、住宅積立預金口座 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅預金口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から生じるリスクについて、口座の存続期間全体にわたり設定されている。

(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
PEL/CELの影響	-21	18	5	-2	-6	-28

(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
BNL バンカ・コメルシアレ (イタリア国内プライベート・バンキングの 100%を含む)*						
営業収益	749	737	781	763	797	809
営業費用および減価償却費	-433	-462	-550	-446	-443	-464
営業総利益	317	275	230	317	354	345
リスク費用	-242	-274	-300	-309	-318	-321
営業利益	74	1	-70	8	36	24
営業外損益	0	0	0	0	0	-1
税引前利益	74	1	-70	8	36	23
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-9	-10	-10	-9	-11	-10
BNL バンカ・コメルシアレ税引前利益	65	-8	-80	-1	24	13
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	5.9	6.0	6.5	6.5	6.5	6.6
BNL バンカ・コメルシアレ (イタリア国内プライベート・バンキングの 2/3を含む)						
営業収益	730	718	762	745	777	790
営業費用および減価償却費	-423	-453	-541	-437	-434	-455
営業総利益	307	265	221	308	342	335
リスク費用	-242	-274	-301	-309	-318	-321
営業利益	65	-8	-80	-1	24	14
営業外損益	0	0	0	0	0	-1
税引前利益	65	-8	-80	-1	24	13
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	5.9	6.0	6.5	6.5	6.5	6.6
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む)*						
営業収益	923	917	882	880	893	897
営業費用および減価償却費	-555	-791	-588	-576	-525	-773
営業総利益	367	126	295	305	368	123
リスク費用	-49	-21	-52	2	-2	-34
営業利益	318	106	243	306	366	90
持分法による投資損益	5	-4	3	3	5	-1
その他営業外項目	0	0	5	-7	-4	-13
税引前利益	323	102	250	303	367	76
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-21	-14	-14	-20	-17	-17
ベルギー国内リテールバンキング税引前利益	302	88	235	283	350	60
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの 2/3を含む)						
営業収益	878	875	846	838	856	852
営業費用および減価償却費	-534	-763	-565	-551	-506	-747
営業総利益	344	112	280	286	350	105
リスク費用	-46	-20	-52	0	-1	-32
営業利益	297	92	228	286	349	73
持分法による投資損益	5	-4	3	3	5	-1
その他営業外項目	0	0	5	-7	-4	-13
税引前利益	302	88	235	283	350	60
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の 100%を含む

(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む)*						
営業収益	681	666	638	625	624	611
営業費用および減価償却費	-355	-393	-368	-332	-332	-354
営業総利益	327	273	270	293	292	257
リスク費用	-25	-31	-31	-33	-26	-47
営業利益	302	242	240	260	266	210
持分法による投資損益	8	12	18	10	3	5
その他営業外項目	3	-2	-13	0	0	-1
税引前利益	312	252	245	270	269	214
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-1	-1	-1	-1	-1	-1
その他国内市場部門税引前利益	311	251	244	269	267	213
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	3.8	3.8	3.5	3.4	3.4	3.3
(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	679	663	636	622	621	608
営業費用および減価償却費	-353	-391	-366	-330	-331	-353
営業総利益	326	272	269	292	290	255
リスク費用	-25	-31	-31	-33	-26	-47
営業利益	301	241	238	259	265	209
持分法による投資損益	8	12	18	10	3	5
その他営業外項目	3	-2	-13	0	0	-1
税引前利益	311	251	244	269	267	213
配賦資本(十億ユーロ、年初末)	3.8	3.8	3.5	3.4	3.4	3.3

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
国際金融サービス部門						
営業収益	3,813	3,696	3,903	3,799	3,871	3,722
営業費用および減価償却費	-2,303	-2,442	-2,403	-2,242	-2,300	-2,389
営業総利益	1,510	1,254	1,500	1,558	1,571	1,333
リスク費用	-355	-339	-411	-417	-432	-462
営業利益	1,155	915	1,089	1,141	1,138	871
持分法による投資損益	111	127	117	103	131	109
その他営業外項目	-4	10	0	27	2	5
税引前利益	1,262	1,052	1,206	1,272	1,271	985
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	25.7	25.8	25.7	25.7	25.7	25.0
パーソナル・ファイナンス						
営業収益	1,168	1,149	1,161	1,174	1,164	1,161
営業費用および減価償却費	-547	-609	-580	-545	-581	-609
営業総利益	621	540	581	629	583	552
リスク費用	-248	-221	-309	-287	-288	-292
営業利益	373	319	273	342	295	260
持分法による投資損益	-8	13	21	22	15	17
その他営業外項目	-1	1	-1	0	2	-2
税引前利益	364	333	293	364	312	276
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	4.8	4.8	4.5	4.5	4.4	4.2
欧州・地中海沿岸諸国 (トルコのプライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	616	608	626	617	663	609
営業費用および減価償却費	-429	-432	-444	-404	-408	-452
営業総利益	187	176	183	213	255	158
リスク費用	-87	-96	-96	-112	-109	-150
営業利益	100	80	87	101	146	8
持分法による投資損益	53	50	46	44	42	42
その他営業外項目	-4	2	1	0	-2	1
税引前利益	149	132	134	145	186	51
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-1	-1	-1	-1	-1	-1
欧州・地中海沿岸諸国税引前利益	149	132	133	145	185	51
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	5.2	5.1	5.4	5.4	5.4	5.3
欧州・地中海沿岸諸国 (トルコのプライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	614	606	625	614	661	607
営業費用および減価償却費	-428	-431	-442	-403	-406	-450
営業総利益	187	176	182	212	254	157
リスク費用	-87	-96	-96	-112	-109	-150
営業利益	100	80	86	100	145	8
持分法による投資損益	53	50	46	44	42	42
その他営業外項目	-4	2	1	0	-2	1
税引前利益	149	132	133	145	185	51
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	5.2	5.1	5.4	5.4	5.4	5.3

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	688	773	735	702	731	667
営業費用および減価償却費	-482	-534	-481	-465	-466	-470
営業総利益	207	239	253	237	265	197
リスク費用	-23	-25	4	-19	-16	-19
営業利益	184	214	257	218	249	178
持分法による投資損益	0	0	0	0	0	0
その他営業外項目	1	10	2	25	1	3
税引前利益	184	225	260	243	250	180
ウェルス&アセット・マネジメント帰属純利益	-3	-3	-3	-3	-2	-2
バンクウェスト税引前利益	181	221	257	240	248	178
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	6.3	6.4	6.3	6.3	6.3	6.0
(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	677	762	724	692	721	658
営業費用および減価償却費	-474	-526	-474	-457	-459	-463
営業総利益	203	236	250	234	262	195
リスク費用	-23	-25	4	-19	-16	-19
営業利益	180	211	255	215	247	175
営業外損益	1	10	2	25	1	3
税引前利益	181	221	257	240	248	178
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	6.3	6.4	6.3	6.3	6.3	6.0
(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
保険						
営業収益	611	456	604	579	562	575
営業費用および減価償却費	-278	-309	-302	-278	-276	-301
営業総利益	333	147	302	301	286	275
リスク費用	1	-1	-4	2	-4	0
営業利益	334	146	298	304	282	275
持分法による投資損益	54	55	40	28	60	42
その他営業外項目	0	-3	-1	0	1	0
税引前利益	387	199	337	332	343	316
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	7.4	7.4	7.4	7.3	7.3	7.3
(単位: 百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
ウェルス&アセット・マネジメント						
営業収益	743	723	789	739	764	720
営業費用および減価償却費	-577	-567	-605	-558	-579	-566
営業総利益	166	156	184	181	185	154
リスク費用	3	3	-7	-1	-16	-1
営業利益	169	159	177	180	169	153
持分法による投資損益	13	8	11	10	14	8
その他営業外項目	0	0	-3	2	0	3
税引前利益	181	167	185	191	183	165
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	2.1	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
ホールセールバンキング事業						
営業収益	3,056	2,686	2,612	2,567	3,014	3,313
営業費用および減価償却費	-2,115	-2,258	-1,976	-1,955	-2,051	-2,475
営業総利益	942	428	636	612	963	838
リスク費用	-46	-28	-63	-40	-14	-96
営業利益	896	400	574	572	948	742
持分法による投資損益	13	-3	10	2	13	8
その他営業外項目	-2	6	-27	-2	20	136
税引前利益	907	403	558	573	981	885
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	22.0	21.9	21.6	21.6	21.5	20.6
コーポレートバンキング						
営業収益	1,037	929	1,126	877	1,015	988
営業費用および減価償却費	-601	-693	-606	-584	-611	-669
営業総利益	436	236	520	293	404	319
リスク費用	-42	-55	-69	-50	55	-73
営業利益	394	181	451	243	459	246
営業外損益	2	0	-10	-1	32	139
税引前利益	396	181	441	242	491	385
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	12.3	12.2	11.4	11.4	11.3	11.0
グローバルマーケット						
営業収益	1,558	1,318	1,053	1,245	1,526	1,886
うち FICC	1,050	890	682	766	900	1,159
うち株式およびプライムサービス	509	428	371	478	626	728
営業費用および減価償却費	-1,139	-1,184	-980	-1,001	-1,073	-1,450
営業総利益	419	134	73	243	453	436
リスク費用	-4	27	4	11	-72	-23
営業利益	415	160	77	254	380	413
持分法による投資損益	11	-4	6	4	2	6
その他営業外項目	-2	6	-12	-2	0	-1
税引前利益	424	163	72	256	382	418
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	9.0	9.1	9.5	9.5	9.5	9.0
証券管理						
営業収益	461	440	433	444	473	439
営業費用および減価償却費	-374	-382	-390	-369	-368	-356
営業総利益	87	59	43	75	106	83
リスク費用	1	0	3	0	3	0
営業利益	88	59	45	75	109	83
営業外損益	0	0	0	0	0	0
税引前利益	87	59	45	75	109	83
配賦資本(十億ユーロ、年初来)	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6

(単位：百万ユーロ)

	2Q16	1Q16	4Q15	3Q15	2Q15	1Q15
コーポレート・センター						
営業収益	650	618	151	198	352	209
営業費用および減価償却費	-295	-182	-381	-302	-395	-258
うち事業再編、変革および適応費用	-108	-46	-286	-160	-217	-130
営業総利益	356	435	-230	-103	-43	-50
リスク費用	-5	9	-24	-6	-24	2
米司法当局との包括的和解に関わる費用	0	0	-100	0	0	0
営業利益	350	444	-354	-109	-67	-47
持分法による投資損益	28	21	5	14	12	15
その他営業外項目	-77	10	-622	11	410	76
税引前利益	301	475	-970	-84	354	43

代替的な業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条にもとづく開示

代替的な業績指標	定義	使用理由
事業部門営業収益	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の営業収益の合計。 BNP パリバ・グループ営業収益 = 事業部門営業収益 + コーポレート・センター営業収益	BNP パリバ・グループの本業の業績を表す指標
PEL/CEL の影響を除く営業収益	PEL/CEL による影響を除く営業収益	PEL/CEL 口座から発生するリスクに対して、口座の存続期間全体にわたり引当金が設定されるが、これらの変動が及ぼす影響を排除した上で、当期の営業収益を表す指標
プライベート・バンキングの 100%を含む リテールバンキング事業損益計算書	リテールバンキング事業の損益計算書であり、プライベート・バンキング業務の損益計算書の全部を含む	リテールバンキング事業の業績を表す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む (プライベート・バンキングは、リテールバンキング (2/3) とウェルス・マネジメント (1/3) の共同責任のもとに置かれるが、その損益計算書を責任割合に基づき分割する前の 100% を含む)
リスク費用 ÷ 期首融資残高 (単位: bp)	リスク費用 (単位: 百万ユーロ) を期首の融資残高で除したもの	事業体が負うリスクレベルの指標であり、融資残高を分母として算定し、% で表示
特別項目を除く株主帰属純利益	特別項目を除いて算定された株主帰属純利益	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を排除した、BNP パリバ・グループの純利益に関する指標。排除される項目の主なものに、自己負債の再評価に関わる修正額 (OCA)、デリバティブに関わる債務価値調整額 (DVA)、に加え、事業改編・再編費用などがある
特別項目を除く自己資本利益率 (ROE)	算定式: 【特別項目および永久最劣後債に関わる支払を除いた株主帰属純利益の年換算後】 ÷ 【永久株主資本の期中平均残高】 (永久株主資本は、直接資本の部で認識される資産および負債の評価差額、永久最劣後債、および予定される配当金を排除した、グループ帰属株主資本を指す)	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を排除した、BNP パリバ・グループの自己資本利益率に関する指標。排除される項目の主なものに、自己負債の再評価に関わる修正額 (OCA)、デリバティブに関わる債務価値調整額 (DVA)、に加え、事業改編・再編費用などがある
得別項目を除く有形自己資本利益率 (ROTE)	算定式: 【特別項目および永久最劣後債に関わる支払を除いた株主帰属純利益の年換算後】 ÷ 【有形永久株主資本の期中平均残高】 (有形永久株主資本は、永久株主資本からのれんおよび無形資産を除いたもの)	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を排除した、BNP パリバの有形自己資本利益率に関する指標。排除される項目の主なものに、自己負債の再評価に関わる修正額 (OCA)、デリバティブに関わる債務価値調整額 (DVA)、に加え、事業改編・再編費用などがある

注:

営業費用: 従業員給与および従業員給付制度、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている

事業部門: 以下の 3 部門から成る:

- **国内市場部門:** フランス国内リテールバンキング (FRB)、BNL バンカ・コメルシアール (BNL bc)、ベルギー国内リテールバンキング (BRB)、その他国内市場部門 (アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、ルクセンブルク国内リテールバンキング (LRB)) を含む
- **国際金融サービス部門 (IFS):** 欧州・地中海沿岸諸国、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険、ウェルス&アセット・マネジメント (WAM) を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業 (CIB):** コーポレートバンキング部門、グローバルマーケット部門、証券管理部門を含む

好業績および事業成長による着実な自己資本の積み上げ	2
リテールバンキングおよびサービス事業	5
国内市場部門.....	5
国際金融サービス部門.....	9
ホールセールバンキング事業 (CIB)	13
コーポレート・センター	14
財務構造.....	15
連結損益計算書	18
2016 年度第 2 四半期 – コア事業別業績.....	19
2016 年度上半期 – コア事業別業績.....	20
連結四半期業績の推移.....	21
代替的な業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条にもとづく開示	30

本プレゼンテーションに含まれる数値は、未監査の数値です。2016 年 3 月 29 日に、BNP パリバは 2015 年度の四半期決算に関する修正を発表しました。かかる修正には特に以下の事項が反映されています。(i) 各業務部門に配賦される資本金を、リスク加重資産に対してそれまでの 9%から 11%へと増強しました。(ii) グループが発行するその他 Tier 1 資本証券および Tier 2 負債証券の劣後特約に関する費用を事業部門や業務部門に負担させ、コーポレート・センターと業務部門との間で発生する流動性について、その請求方法および報酬の決定方法を見直すとともに、CIB 財務部門の活動により生じる営業収益および営業費用の配賦方法を改変しました。(iii) 単一破綻処理基金への拠出金、フランスのシステムリスク税の負担、BNL bc およびルクセンブルク国内リテールバンキングに関する預金保険基金への新たな拠出金については、一時的にコーポレート・センターの営業費用として計上していましたが、これらを事業部門および業務部門へ配賦しました。(iv) 一部の業務および業績が、グループ内部で移管あるいは振替えられました。2015 年度四半期業績の数値は、あたかもこれらの取引が 2015 年 1 月 1 日に実施されたかのように反映し修正されています。本プレゼンテーションは、修正された 2015 年度の四半期数値に基づいています。

本プレゼンテーションには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレゼンテーションに含まれるいかなる予測的な記述も本プレゼンテーション発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス (Supervisory Review and Evaluation Process : SREP)」は欧州中央銀行 (ECB) により毎年実施されますが、BNP パリバグループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレゼンテーションに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関する情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはならず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者とともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレゼンテーションあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレゼンテーションやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中所および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。